

## 進化する簡易版環境マネジメント

### エコアク ション21 全国交流研修大会

環境に配慮した製品も評価対象

簡易版環境マネジメントシステムであるエコアクション21が進化する。地球環境戦略研究機関・エコアクション21事務局（東京都千代田区、03・3509・7903）は7月29日と30日の両日、ホテルメトロポリタン山形で審査員など約300人を集めて全国交

流研修大会を開いた。今後、環境に配慮した製品づくりなども評価対象にすべきと進化の方向が示された。

エコアクション21は環境省が04年4月にまとめた「環境経営システム・環境活動レポートガイドライン」をもとにした。同年10月から地球環境戦略研究機関が

事務局となって認証を開始。簡易版の環境マネジメントシステムとして、中小企業などを対象に拡大してきた。審査員は約6000人、取組む事業所も約900件と確実に伸長している。

エコアクション21は二酸化炭素の排出量、水の使用量、廃棄物の量などの環境に負荷を与える量を把握して改善していけばよく、ISO14001に比べて認証の取得で費用や労力の負担が小さくて済む。地域の環境関連の社団法人など26都府県の35団体が地域センターとして機能し、自治体でもエコアクション21を中小企業に勧める動きが出ていて、普及に拍車をかけている。

今回の会合では、国際連合大学副学長の安井至氏が「環境にやさしいをどう考え、どう判断するか」で基調講演。持続可能な社会構築の動きを農業、工業に次ぐ第三の革命と位置づけ、

今後はエネルギーと食品が植物の生産物を奪い合う時代になると予測した。こうした地球規模の変化をふまえた上で、認証を行うべきと参加者に訴えた。

また、パネルディスカッションでは「形式的・箱庭的、環境保全活動からの脱却」と題して、ISO14001が事業所ベースで認証していたため、細部では完璧だが、形式的にならざるを得ないと指摘。エコアクション21では柔軟性があるが、審査の品質を高めていく必要性が示された。大企業のグリーン調達に、エコアクションの認証取得企業の製品も認められるべきとした。